



ASAHI University News Letter

vol.138

March 2022

発行日／隔月1日
編集・発行／朝日大学 総務部



朝日大学HP

「2022年度事業計画」決まる

2022年度朝日大学事業計画が、学校法人朝日大学理事会において決定されました。

「魅力ある大学、選ばれる大学」をめざし、宮田淳理事長のもと、大友克之学長をはじめとする全教職員が一丸となっての事業計画がスタートします。



陽だまりの中、穂積キャンパス中庭に「ほづみの森こども園(瑞穂市)」の園児たちがやってきました。

「建学の精神」に基づき「魅力ある大学、選ばれる大学」をめざす

2022年度事業計画決まる

2022年度の事業計画が、本年1月の理事会で決定されました。

建学の精神「国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間的知性に富む人間の育成」に基づき、次世代を担う若者の夢の実現に向け、教育の質の向上を図り、社会の多様な変化に対応できる有為な人材の育成に全力で取り組んでいくことになります。

朝日大学では、次のとおり事業計画の基本方針を掲げています。



2022年度事業基本方針を述べる宮田淳理事長

1 優秀な学生の受入れ

- ・全学部全学科における入学定員の継続的な充足
- ・充実した教育研究活動、学生支援等に基づく効果的な広報活動等の実施(本学の教育研究活動等の魅力・強みの積極的な情報発信等)
- ・高大接続改革実行プランに基づく入学者選抜方法の充実
- ・高等学校と連携した入学予定者への入学前教育の実施

2 教育・研究活動の質の保証と向上

- ・教学マネジメントによる教育の質の保証と向上に資する活動の推進
- ・初年次教育(建学の精神と社会生活、情報リテラシー等)の実施
- ・人権教育及び人権擁護の推進
- ・教養教育の授業内容・方法等の改善及び充実
- ・地方教育懇談会の実施
- ・大学情報の発信(Webサイトの充実、研究成果の積極的な公表等)
- ・IR推進本部による入試、学生、教学等に関する情報収集・分析、教育活動改善への活用等の推進
- ・研究活動の推進(学内奨励金による研究支援及び外部資金の獲得支援)
- ・自己点検・評価の実施、自己点検評価書の作成及び公表
- ・提携大学との協定に基づく活動(学生・教職員の交流等)の実施

3 地域社会、ステークホルダー等への貢献

- ・地域貢献(高等学校、産業界等との連携、SDGsに基づく取り組みの推進、知的財産の還元)
- ・教育後援会、同窓会との連携強化
- ・三医療機関(大学病院、医科歯科医療センター、PDI岐阜歯科診療所)による社会貢献(地域住民の健康維持・増進に寄与)

4 国際化ビジョンに基づくグローバル化の推進

- ・学生の国際化の推進(海外提携大学等との活発な相互交流、短期海外研修、ELSにおける英会話教育等の実施)
- ・教職員の国際化の推進(海外留学研修支援、海外派遣等)
- ・地域の国際化への貢献(国際交流イベントへの参加促進等)

5 学生支援の充実

- ・学修・課外活動支援(奨学金の給付、体育会・学友会等の支援)
- ・学生生活支援(無料スクールバスの運行、三医療機関の診療費補助、学生食堂・学生ホール等の充実)
- ・就職支援(高い就職率の維持のための各種取り組みを推進)
- ・留学生支援(学費の減免、住居支援、就職支援等)

6 社会人の学び直し支援の充実

- ・社会人の学び直し支援講座(英会話プログラム、医療経営士養成講座、市民講座「エクステンション・カレッジ」等)の開講
- ・歯科医師に対する生涯教育(最先端の臨床教育)の推進

7 施設・設備の充実

- ・医科歯科医療センター大規模改修工事の実施
- ・大学病院の新棟建設に向けた基本計画の検討
- ・教育充実のための設備の整備
- ・体育会の施設・設備の充実及び計画的な改修工事の実施
- ・三医療機関の計画的な設備の整備
- ・学生ホール、中庭等の改修工事の実施
- ・建物等施設設備の計画的な改修工事の実施
- ・修学支援サービス、事務のワークフロー等におけるDX推進

8 法人運営の基盤強化

- ・長期収支とバランスを考慮した事業計画遂行のための予算編成
- ・全学部及び歯科衛生士専門学校における収容定員の継続的な充足
- ・安全性・確実性を考慮した資産運用の実施
- ・学校教育の支援に資する収益事業の実施
- ・三医療機関における地域医療の充実を図るための安定的な経営
- ・科学研究費助成事業、受託研究費等の外部資金獲得の推進
- ・事業計画を推進する合理的な組織の整備及び人財の育成
- ・創立50周年記念事業の実施
- ・ガバナンス強化のための「朝日大学版ガバナンス・コード」の策定

教職員の資質向上が不可欠

教育職及び事務職の役職者等を対象としたSD研修会が開催され、大友克之学長、赤石健司常務理事から「2022年度事業計画の概要」と「本学の現状分析」について詳細に解説されました。

出席者たちは、建学の精神に基づき、より一層の大学改革の

推進、組織力強化と教職員の資質向上を図ることが「魅力ある大学、選ばれる大学づくり」につながるものであるとの認識を深めました。



大友学長らが講師を務める

新役職者決まる

今年3月の役職者の任期満了にともない、理事会において新役職者等が選任(再任、任期中の役職者を含む。)されました。

「魅力ある大学づくり、選ばれる大学づくり」をめざし、大友克之学長、森下伊三男副学長、田村康夫副学長、江尻貞一副学長を中心とした新執行部体制がスタートします。



新たに選任された役職者が挨拶

学長 大友 克之	副学長、生涯学習センター長 森下 伊三男
副学長、産学官連携共同研究推進本部長 歯学部長、大学院歯学研究科長	田村 康夫
副学長、IR推進本部長 江尻 貞一	学生部長 都尾 元宣
情報教育センター長 産業情報研究所長 矢守 恭子	図書館長 大野 正博
英語教育センター長 野畠 伸芳	体育会長 山本 英弘
法学部長、大学院法学研究科長 杉島 正秋	法制研究所長 坂元 弘一
経営学部長 小畠 信史	大学院経営学研究科長 板谷 雄二
経営学科長 荒深 友良	マーケティング研究所長 中畑 千弘
保健医療学部長 小島 孝雄	看護学科長 須賀 京子
健康スポーツ科学科長 竹島 伸生	教職課程センター長 虫賀 文人
留学生別科長 松井 かおり	朝日大学病院長 日下 義章
医科歯科医療センター長、包括支援歯科医療部長 歯科医師臨床研修センター長	藤原 周
PDI岐阜歯科診療所長、卒後臨床研修部長 歯科医師生涯研修センター長 堀田 正人	歯学部教務部長 玉置 幸道
研究支援部長、口腔科学共同研究所長 裕 哲崇	歯科医学教育推進センター長 永山 元彦
臨床実習センター長 石神 元	歯科衛生士専門学校長 磯崎 篤則
健康管理センター長 塚原 隆司	事務局長 田中 聰

野鳥をテーマに国際交流

中国江西省との青少年交流

岐阜県が友好提携する中国江西省との青少年交流事業として、野鳥をテーマにしたオンライン交流会が、昨年11月27日に穂積キャンパスで開催され、本大学からは歯科衛生士専門学校生5名が参加しました。

交流会では、県の鳥ライチョウ(絶滅危惧種)の生態や保護の取り組み、アジア最大の渡り鳥越冬地である鄱陽湖の美しい

南アフリカ公使が講演

南アフリカの教育制度

駐日南アフリカ共和国大使館のGhaleeb Jeppie科学イノベーション教育担当公使を講師にお迎えし、「南アフリカ共和国の経済を活性化させる教育制度と役割—SDGsの視点から—」と題した「2021年度第3回FD・SD研修会」が、昨年11月11日に穂積キャンパスで開催され、教職員約50名が熱心に受講しました。



Ghaleeb Jeppie公使が講演

研修会では、Jeppie公使から、同国の大学事情や課題の解説を、また、教育に多大な影響を残したアパルトヘイト(人種隔離)政策に触れつつ、教育格差を解消するための人材育成プログラムや留学生制度などを紹介いただきました。

今回の来学は、本大学と同国ウエスタンケープ大学との交流が、国立研究開発法人科学技術振興機構の「さくらサイエンスプログラム」にアフリカ大陸初の採択となり、同国大使館に高く評価いただき実現したものです。

ハノイ大学と学術交流協定を締結

本大学は、ベトナム社会主義共和国のハノイ大学と「学術交流及び協力に関する協定」を締結しました。

今回の協定では、①教員及び研究者の交流、②短期私費留学などの学生の交流、ベトナム研修など海外スタディーツアー、③共同研究及び研究集会、④学術上の情報、刊行物及び資料の交換など、多岐にわたる学術交流協定となっています。

1959年に創立のハノイ大学は、ハノイ旧市街地の郊外にあり、学生数17,000名を擁する名門大学。かつてハノイ外国語大学の名称であったことから、日本語を含む外国语教育に力を入れています。

本大学は同国との関係も深く、これまで数多くの留学生受け入れてきており、充実した学生の短期海外研修も実施してきました。

映像、野鳥を大切にしている保護センターの活動が紹介され、参加者は環境保護の取り組みを学びました。

本大学は、同国江西省の南昌大学と学術交流協定を締結(2021年3月)しており、同大学からの学生受入れが、国立研究開発法人科学技術振興機構の「さくらサイエンスプログラム」に採択されるなど、江西省との交流を行っています。



マスコットキャラクターと共にオンライン交流

ひらめき☆ときめきサイエンス

穂積キャンパスで、日本学術振興会の科学研究費助成事業のプロジェクト「ひらめき☆ときめきサイエンス - 魔法の言葉で運動能力がアップする?! -『オノマトペ』で秘めたる力を引き出そう!」が、昨年11月6日に開催されました。

魔法の言葉オノマトペ

「オノマトペ(擬音語、擬態語)」研究の第一人者である保健医療学部健康スポーツ科学科の藤野良孝教授が講師を務めた「ひらめき☆ときめきサイエンス」には、小学5・6年生と保護者27名が参加。講義室で「オリンピック選手も使っているスポーツオノマトペの効果と可能性」の講義を受講した後、体育館で爆発的な力を發揮する魔法(ガーッで高くジャンプ飛びをしよう)、リズムとイメージで身体を動かす魔法(サーッ、タン、パッ、トンで飛び箱を跳べるようになろう)の体験に取り組みました。

子どもたちは、「オノマトペ」という魔法の言葉を通じ、実際にいろいろな運動を体験することで測定数値が上がることに感動・感激し、スポーツを科学することの楽しさを学びました。



「ガーッ」でジャンプ飛びに挑戦

カゴメ(株)に学ぶ!

穂積キャンパス5号館講義室において、経営学部の授業「商品開発実践演習」「ふるさと情報総合演習」の合同授業が、カゴメ(株)執行役員 野菜をとろうキャンペーン室長の宮地雅典氏を講師にお迎えし、昨年11月30日に行われました。

地域社会との連携

宮地氏から、「社会課題の解決に向けたカゴメの取り組み」をテーマに、地域が抱える問題を地域の自信につなげていく取り組みとして、北海道余市市でのトマトジュースを活用した障がい者の雇用機会の創出、山形県での紅大豆の安定販路の確保事例を解説いただきました。続いて、カゴメ(株)のマーケティング戦略として、社内向け「野菜マエストロ検定」の創設、消費者の飲料実態に基づく「商品の進化」と「新たなプロモーション」の実施によって、ヘビーユーザーや新規ユーザーの獲得活動に積極的に取り組んでいることを語っていただきました。



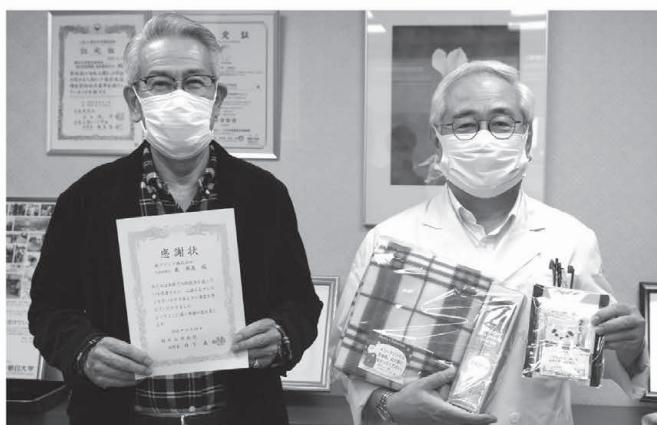
宮地執行役員がカゴメ(株)の取り組みを語る

入院患者さんに膝掛けを贈る

朝日大学病院(岐阜市橋本町)では、寒さに向かえるこの時期に入院患者さんへクリスマスプレゼントを贈っています。

この行事は、毎年行っている催事で、本院とかかわりのある森プリント(株)社長(本社:岐阜県羽島郡笠松町米野)の森典義氏、本院の非常勤講師で、いちだクリニック院長(岐阜市清本町)の市田正成先生のご好意により寄付された膝掛け等が入院患者さん一人ひとりへ贈られました。

例年はサンタクロース扮した病院長らが患者さんにプレゼントを直接渡していましたが、今回もコロナ禍で取りやめとなり、患者さんへは看護師らからの手渡しとなりました。患者さんは「お身体、大事になさってください」と書かれた手製のメッセージカードを見て、心がなごみ笑顔を見せっていました。



大学病院からの感謝状を手に森社長(左)とプレゼントを手にした日下病院長

英語教育研究セミナーを開催

本大学の建学の精神である「国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして人類普遍の人間的知性に富む人間の育成」の理念のもと、英語教育に携わる関係者との連携を図ると共に、教育手法の向上と英語教育のさらなる発展をめざす「岐阜県英語教育研究セミナー」が穂積キャンパス5号館講義室で昨年11月27日に開催(併せてZOOM配信)されました。

外国語教育を通して身に付けたい力

同セミナーでは、文部科学省中等教育局視学官の直山木綿子先生を講師にお招きし、「外国語教育を通して身に付けたい力」をテーマに、小学校から開始されている外国語教育を通して、高等学校卒業段階までどのような力を身に付けることが求められているのかを解説いただきました。参加者たちは真剣なまなざしで講演に聞き入っていました。



直山先生が「身に付けたい力」を解説

国税局徴収部長による特別講義

昨年11月24日に、穂積キャンパス6号館大講義室で、国税庁の『税を考える週間(11/11~17)』の一環として、名古屋国税局の土屋雅則徴収部長を講師にお迎えし、「税の役割と国税庁の仕事」と題した特別講義が開催されました。同講義は、2008年度から法学部の税法の授業の一環として、現在は、「キャリア形成I・II」の授業として実施されています。

受益と負担のバランスが重要

講義では、財務省、国税庁、税務署の組織や業務内容、申告納税制度や年末調整制度など申告手続き等の基本を、また、少子高齢化に伴う我が国の厳しい財政の状況や受益と負担のバランスに関する国際比較などについて解説いただきました。

受講した約230名の学生たちは、初めて聞く税務行政の課題などに興味深く聞き入り、税について改めて考える機会となりました。



名古屋国税局の土屋徴収部長が講師を務める

東南アジアにおけるCOVID-19の現状と課題

穂積キャンパス6号館大講義室で、保健医療学部看護学科と歯科衛生士専門学校との合同特別講演会が昨年11月15日を開催されました。

医療従事者の働き方改革と国際協力

WHO世界保健機関東南アジア地域事務局看護技術系行政官の谷水亜衣氏を講師にお迎えした特別講演会では、「WHOにおけるSDGsへの取り組み」と題して、Universal Health Coverageの内容及びその現状と課題、東南アジアにおけるCOVID-19の現状と課題、東南アジアにおける医療従事者の現状と課題、医療従事者の働き方改革、医療従事者への投資、国際協力の役割など様々な分野にわたる解説をいたしました。

約250名の学生たちは、東南アジアにおける「COVID-19」の現状、健康と医療、国際協力の大切さを学ぶ貴重な機会となりました。



WHOの谷水行政官が学生に語る

「日本経済会計学功績賞」を受賞!!

小畠信史経営学部長が、日本経済会計学会の「功績賞」を受賞されました。

この賞は、会計学、経営学及び経済学の研究・教育、経営分析の理論・実務、並びに学会の運営に対する多年にわたる顕著な功績に対して授与される名誉ある賞です。



小畠経営学部長

「男女共同参画社会の啓発」で表彰!!

法学部宮坂果麻理准教授が、岐阜県が女性の人権尊重や性別による役割分担意識の解消に尽くした個人などを表彰する「男女がともにいきいきと暮らせる社会づくり表彰」で、県こども・女性局の安江真美局長から表彰を受けられました。

今回の表彰は、瑞穂市男女共同参画推進審議会会長を発足当時から務め、学生と社会人が男女共同参画をテーマに議論する「ワールドカフェ」の開催など意識啓発を続けてきた宮坂先生の活動が高く評価されたことによるものです。

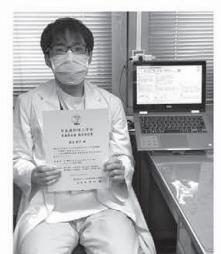


大友克之学長に受彰を報告

「医歯薬出版株式会社賞」を受賞!!

歯学部歯科理工学分野の新谷耕平助教が、日本歯科理学会学術講演会での研究発表「リン酸アンモニウムを利用したリン酸三カルシウム合成の検討」が高く評価され、「日本歯科理学会 医歯薬出版株式会社賞」を受賞されました。

この賞は、優秀な研究発表を表彰し、研究発表の活性化が賛助会員の商品開発の大きな力となることを期待して創設された賛助会員のスポンサーシップによるものです。



「医歯薬出版株式会社賞」受賞の新谷助教

「日本唾液腺学会奨励賞」を受賞!!

歯学部歯科薬理学分野の長瀬春奈助教が、日本唾液腺学会学術集会での研究発表「腺房細胞におけるCdc42の欠損は唾液分泌不全を呈する」が高く評価され、「日本唾液腺学会奨励賞(基礎的研究分野)」を受賞されました。

日本唾液腺学会は、基礎・臨床の視点から唾液と唾液腺についての学術的な討論や情報共有を行う学会で、「奨励賞」は優秀な研究テーマに授与される賞です。



「日本唾液腺学会奨励賞」を受賞した長瀬助教(左)

文部科学省から表彰!!

令和3年度の医学教育等関係業務功労者として、朝日大学病院臨床検査部臨床検査技師主任の野田哲生さんと、医科歯科医療センター歯科衛生部副歯科衛生士長の小川千春さんが表彰されました。

この表彰は、大学における医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し、顕著な功労のあった者を表彰することで、関係職員の士気を高揚し、医学又は歯学教育の充実向上を図ることを目的としたものです。

「ミナモチャンネル」とコラボレーション!!

岐阜県が運営しているYouTube「ミナモチャンネル」において、コロナ禍でなかなか思うように外出できない子ども達の健康管理の一助となるよう、本大学保健医療学部健康スポーツ科学科の角田和代准教授監修のもと、同学科の学生が動画撮影に参画しました。



ミナモ(右から2番目)と動画撮影

姿勢と呼吸について考え方

動画は、7本シリーズで構成されており、日常生活の中で、特別な装備や器具がなくてもできる「動的ストレッチング」を中心に紹介しています。動画を見てマネすることで凝り固まった心と身体をほぐすプログラムとなっています。

商業科教諭が誕生

合格おめでとうございます!

本大学経営学部4年生の山田彪博(岐阜県出身)さんが、静岡県の令和4年度教員採用試験にみごと合格しました。

山田さんは、2019年に創部された体育会吹奏楽部に所属、部活動と両立しながら時間を見つけて教職課程センターに通い勉学に励んでいました。今回の山田さんの合格は、教員免許状取得を目指す後輩に夢と希望を与えてくれるとともに、商業教育と吹奏楽を通して岐阜県と静岡県のパイプ役として山田さんの活躍が期待されています。



静岡県教員採用試験に合格の山田さん

叙勲 歯学部1期生が受章

本大学歯学部1期生で、(社)藤岡多野歯科医師会会長を務められた河内孝志先生が、令和3年(2021年)秋の叙勲で「旭日双光章」を受章されました。

河内先生は、地元群馬県藤岡市で多年にわたり歯科医療に携わり、地域の保健衛生推進に尽力されたご功績(保健衛生功労)が認められての受章となりました。



河内先生(歯学部1期生)

植栽で地域貢献

白や赤や紫のパンジーできれいな景観

穂積キャンパス正門前の植樹帯に花を植える道路維持管理のボランティア活動に、防犯ボランティア団体「めぐる」、体育会硬式野球部と相撲部の部員ら約50名が参加しました。

学生たちは、正門前の植樹帯約200mの区間に白や赤や紫のパンジー約800株を植栽しました。

今回の植栽は、「めぐる」が地域住民や団体、企業がボランティアで清掃や除草など道路の維持管理を行う岐阜県の「ぎふ・ロード・プレイヤー」に県内大学の団体として初めて登録されたことに伴う取り組みです。

「めぐる」のメンバーたちは「きれいな景観を維持することで、ゴミのポイ捨て防止や犯罪抑止にも役立つのでは」と話し、日々の清掃や除草作業に取り組んでいます。



植栽に取り組む学生たち

薬物依存について

学生部主催の「学生部薬物講演会」が、穂積キャンパス6号館大講義室で昨年12月10日に開催されました。

本講演会は、年末年始の休暇を控え、学生が薬物犯罪等に巻き込まれないための注意喚起を行うと共に犯罪被害に関する予備知識を学び、自己防衛のための意識を高めさせることを目的に開催されたものです。

講師を務めた岐阜ダルクの遠山香氏と山田興久氏からは、対面で約250名、オンラインで約500名の受講者を前に「危険ドラッグ使用者の実態」や「薬物の危険性」を解説いただきました。



岐阜ダルクの遠山氏が「薬物の危険性」を解説

輝かしい競技成績で 「清流の国ぎふ栄誉賞」受賞

本学体育会強化種目に所属の選手たちは、このたび輝かしい競技成績により、「清流の国ぎふ栄誉賞」を受賞しました。

同賞は、スポーツなどの分野で国内、世界トップレベルの活躍をした個人や団体に贈られる賞です。

フェンシング	辻 すみれ (法学科4年:岐阜)
自転車競技部	山元 大夢 (経営学科4年:石川)
	吉野 太晟 (経営学科2年:岡山)
	安達 光伸 (経営学科2年:岐阜)

CLOSE UP

プロの頂点をめざせ

体育会自転車競技部の枝村弘樹選手(経営学科4年:宮崎県立都城工業高等学校出身)、佐藤譲士郎選手(同学科4年:山形県立村山産業高等学校出身)、棚瀬義大選手(同学科4年:岐阜県立岐南工業高等学校出身)、山元大夢選手(同学科4年:石川県立内灘高等学校出身)の4名が、また、岡崎陸登さん(2020年ビジネス企画学科卒業:愛媛松山聖陵高等学校出身)が、みごと「第123回日本競輪選手養成所入学試験」に合格しました。

全日本インカレ総合3位入賞に貢献

昨年8月開催の「全日本インカレ総合3位(トラック部門9種目)」に大きく貢献(タンデムSP準優勝、4kmTP3位入賞、オムニアム3位入賞、チームSP5位入賞、マディソン8位入賞ほか)した4名は、今後、日本競輪選手養成所でプロ選手としての競技力を身に付け2023年夏に競輪選手としてデビューする予定です。めざせ、プロの頂点を。

自転車競技部では、今回の4名のほか、すでに20名が競輪選手として活躍しています。



チームスプリントで活躍

卓球 東海リーグでアベック優勝!

「2021東海学生卓球リーグ戦」が、パロマ瑞穂アリーナ(愛知)で開催(昨年11月28日)され、体育会卓球部は、みごとアベック優勝という輝かしい成績を収めました。

また、「2021後期日本卓球リーグ(昨年11月開催)」では、男子が2部リーグで準優勝、女子は2部リーグ7位の成績を収めています。

今後の卓球部の活躍が期待されます。

ホッケー 全日本選手権5連覇達成!

(公社)ぎふ瑞穂スポーツガーデンのチームで体育会ホッケー部の卒業生も所属する岐阜朝日クラブが「第95回全日本ホッケー選手権大会(昨年11月28日)」において、激闘を征しごと栄冠を勝ち取り、歴史ある同大会での5連覇を達成しました。

また、岐阜朝日クラブBLUE DEVILS(岐阜朝日クラブと体育会学生の混成チーム)は「ホッケー日本リーグ(昨年12月5日)」決勝戦で惜敗、連覇達成はなりませんでした。

本大学客員教授で体育会ホッケー部の監督も兼任する長屋恭一監督は「さらにレベルアップを図り優勝をめざしたい」とコメント、すでに来期へのスタートが切られました。



岐阜朝日クラブが全日本選手権5連覇

フェンシング 全日本インカレで準優勝!

「第61回全日本大学対抗フェンシング選手権大会」が、東京都駒沢屋内球技場(東京)で開催(昨年11月21日)され、体育会フェンシング部は、女子サーブル団体でみごと準優勝の成績を収めました。

パリ五輪を目指して、フェンシング部のさらなる活躍が期待されます。



サーブル女子団体で準優勝

NEWS

創立51周年記念植樹

朝日大学では、本年1月19日で創立51周年を迎えました。これを記念して、穂積キャンパス総合グラウンドの野球場西側にて「記念植樹」が行われました。大友克之学長の挨拶の後、出席した教職員の手により本大学が一層たくましく発展・成長することを祈り、記念樹の「クロガネモチ」が植樹されました。



本大学のさらなる発展・成長を願い、記念植樹を行った

睡眠は生活すべてにとって重要

朝日大学病院(岐阜市橋本町)の睡眠医療センターは、岐阜県内の病院として初の「日本睡眠学会専門医療機関(A型)」に認定されています。

同センターでは、閉塞性睡眠時無呼吸症候群はもちろん、診断が遅れることも多い過眠症や、むずむず脚症候群、レム睡眠行動異常症など幅広い睡眠関連疾患全般の診療を行っています。

睡眠は人の健康のみならず生活すべてにとって重要なものです。是非一度自身やご家族の睡眠に目を向け、何か気になることがあれば気軽にご相談ください。

・予約受付時間：水～金曜日 13:00～15:00
(TEL 058-253-8001)

・診察受付時間：水・木・土曜日 8:30～11:00



留学生別科と高校生が交流

交流会で高大連携を推進

岐阜市須賀にある岐阜県立岐阜総合学園高等学校の国際文化系列3年生40名と本大学留学生別科生16名との交流会が、昨年12月6日に開催されました。

岐阜総合学園高等学校での交流会は、留学生たちが日本の高等学校や高校生活をより深く理解するとともに、日本の若者文化や日本語を学ぶ機会とするために開催されました。

全体会の後、グループに分かれて校舎を見学したり意見交換を行ったことで、高校生・留学生両者にとって互いに多くを学ぶことができ、大変新鮮で刺激的な1日となりました。



高校生と留学生別科生が交流

聴衆を魅了!!

「アラジン」メドレー

体育会吹奏楽部の「第2回定期演奏会」が昨年12月28日に、ぎふ清流文化プラザ長良川ホール(岐阜市)で開催されました。

演奏会では、2021年度吹奏楽コンクール委嘱作品のヴォイス～独奏の群像、吹奏楽のための第2組曲、想い麗し淨瑠璃姫の零、「アラジン」シンフォニック・メドレーなどが演奏され、約400名の聴衆を魅了しました。



「アラジン」メドレーなどを演奏